



全国大会代議員

渡邊 克男

(岩手・盛岡支部)

揺るぎない確信を！

創立八十周年をめざす三  
年計画で岩手県本部は、会員  
拡大七十七名の目標を掲げま  
したが、盛岡支部はこれをしつ  
かり受け止め、応えるため二  
五〇名の目標を掲げ活動して  
きました。

私は全国大会に参加して、  
自分たちの活動の実践と教訓  
について発言準備をした内容  
について報告します(全国大  
会では発言が当らなかった)。  
一つは、①支部の組織強化  
と組織拡大は車の両輪 ②支  
部の目標を持つこと ③毎月

拡大するなどのとりくみをつ  
らぬくこと。

二つは、①三つの節を設け  
て、各々の節ごとの目標達成  
に力を入れることを具体的に  
して、とりくむことでした。

この結果、盛岡支部は会員  
拡大で初年度二三名を増やし、  
県本部の初年度目標七〇〇達  
成に一定の貢献をすることが  
できました。

また、次年度は若干の増減  
の変動もありましたが、六月  
一日の組織現況調査の時点で  
は二四〇名でしたが、ここで  
さらに粘り強いとりくみを行  
い、三年目の最終年度はつい  
に目標の二五〇名を突破し、  
県本部目標達成に二二名の拡  
大で貢献、盛岡支部は二六八

名の会員を擁する過去最高の  
峰に到達することができまし  
た。この数は有権者比〇・一  
%をクリアするものです。

次にとりくみの教訓は、県  
本部目標をしっかりと受け止め、  
支部長を先頭にした役員会の  
団結が鍵となったこと。決め  
たことは必ずやりきるとい  
う支部の気風を確立したこと  
です。とりわけ、創立八〇周  
年・県本部結成三十年の記念  
に、山田善二郎会長を迎えて  
行った講演会の成功は大きな  
弾みとなったことなど、多く  
の成果を上げることができた  
ことは、私たちに喜びと確信  
を与えてくれました。

全国大会代議員

佐藤謹一郎さんは、県本部を代表して全国大会で①全支  
部成果で過去最高の会員数達成②とりくみの教訓③次期県  
本部大会に向けての展望について発言しました。

この発言内容については、中央本部「救援新聞」に掲載  
予定であり、岩手版では割愛させていただきますのでご了承  
ください。

第五十四回全国大会代議員は次の方々でした

佐藤謹一郎さん(県本部常任委員・一関支部長)

渡邊 克男さん(県本部常任委員・盛岡支部長)

上野 修幸さん(北上支部)

大変ご苦労さまでした

全国大会代議員

上野修幸

(岩手・北上支部)

全国大会に参加して！

国民救援会創立八〇周年の  
年七月二五日から二七日まで  
の三日間愛知県蒲郡市で開催  
された標記大会に参加しまし  
た。

蒲郡は、駅に降りると「三  
七度C」という気温でビニー  
ルハウスの中にもいるよう  
な暑さで立っているだけで汗  
が流れ落ちるようでした。  
大会会場は、蒲郡市西浦温  
泉でおだやかな三河湾を望む  
海岸に建つホテルでした。

三日間の大会で二日目に一  
関佐藤代議員が討論に立ち、

岩手県の会員拡大目標達成の  
経験が報告されました。その  
中で各支部とも(目標に対し  
てねばり強く拡大目標を追求  
したこと、また県本部大会、  
支部代表者会議を成功させ会  
員数の多い支部が頑張ったこ  
とが目標達成に至ったとのこ  
とでした。

全体の発言者は、代議員、  
特別代議員合わせて五十数名  
で、その中で国公法弾圧事件  
の堀越さん、宇治橋さん、葛  
飾ピラ配布弾圧事件の荒川さ  
んの発言は、内容的にも関心  
が深く、言論弾圧を許さず、  
ピラ配布の自由を！というも  
のであった。

堀越さんの訴えは涙ながら  
のものでした。三日間の大会

を通じて、中央役員、各県、  
各地区代議員、特別代議員の  
発言は、権力の弾圧を許さな  
い「大きな組織づくり」とい  
うものでした。

